



2026年4月6日

各位

会社名 東洋紡株式会社
代表者名 代表取締役社長 竹内 郁夫
(コード：3101 東証プライム)
問い合わせ先 コーポレートコミュニケーション部長 阪本 悟堂
(TEL 06-6348-3044)

「2030 中期経営計画（2026～2030 年度）」策定について

東洋紡株式会社は、長期ビジョン「サステナブル・ビジョン 2030」を 2022 年 5 月に発表いたしました。このたび、「サステナブル・ビジョン 2030」の後半に位置づける「2030 中期経営計画（2026～2030 年度）」を策定いたしましたのでお知らせします。

1. 2025 中期経営計画（2022～2025 年度）のレビュー

2025 中期経営計画（2022～2025 年度）は、「サステナブル・ビジョン 2030」に掲げる目標達成に向けた通過点として、「つくりかえる・仕込む 4 年」と位置づけ、取り組んできました。安全・防災、品質などの基盤整備を進め、並行して積極的な設備投資を実行してきましたが、事業ポートフォリオの組替えの遅れ、環境変化への対応遅れ、大型成長投資の立上げ遅れにより、稼ぐ力が低下しました。中期経営計画期間中に、価値に見合ったプライシングの徹底、全社プロジェクトによる経費削減を推進し、後半は回復しましたが、営業利益、ROE、ROIC などの財務指標は目標未達となる見通しです。

2. ありたい姿、価値創造ストーリー

当社グループは、企業理念体系「TOYOBO PVVs」において、「私たちは、素材 + サイエンスで人と地球に求められるソリューションを創造し続けるグループになります」というビジョンを掲げています。その実現に向けて、新たに「価値創造ストーリー」、およびブランドスローガン「いのちと世界の、役に立て。」を策定しました。「先端材料」「ヘルスケア」「環境・エネルギー」を重点領域とし、人々の暮らしと地球環境を「ゆたか」にしていきます。

【ありたい姿】

ビジョン

素材 + サイエンスで人と地球に求められるソリューションを創造し続ける

重点領域：先端材料、ヘルスケア、環境・エネルギー

価値創造ストーリー

- 『順理則裕』（なすべきことをなし、ゆたかにする）のもと
- 高分子、バイオのコア技術をベースに、柔軟性と変革のDNA、粘り強さ、真摯さの企業文化により、社会課題の解決に貢献し続ける
- お客様との共創、およびパートナーとの協業を通じて、多様な素材を目的性能に最適化することで、顧客価値を創造し、人々の暮らしと地球環境を「ゆたか」にする。そして、私たち（人・企業）も成長・発展し続ける

ブランドスローガン

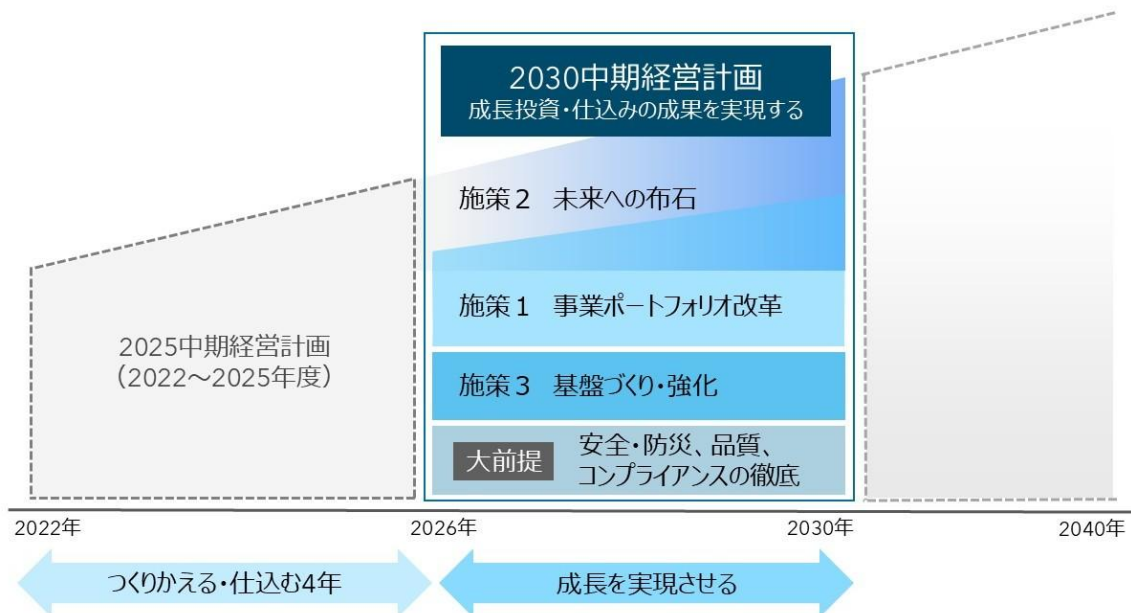
いのちと世界の、役に立て。

3. 2030 中期経営計画（2026～2030 年度）～成長投資・仕込みの成果を実現する～

(1) 経営目標と 3つの施策

「2030 中期経営計画（2026～2030 年度）」は、「サステナブル・ビジョン 2030」の後半と位置づけ、財務体質の改善と利益成長を両立させ、2030 年度までに ROE 8%超を目指します。具体的には、「安全・防災、品質、コンプライアンスの徹底」を大前提とし、「事業ポートフォリオ改革」「未来への布石」「基盤づくり・強化」の 3つの施策を進めます。

【2030 中期経営計画の位置づけ】



【経営目標】

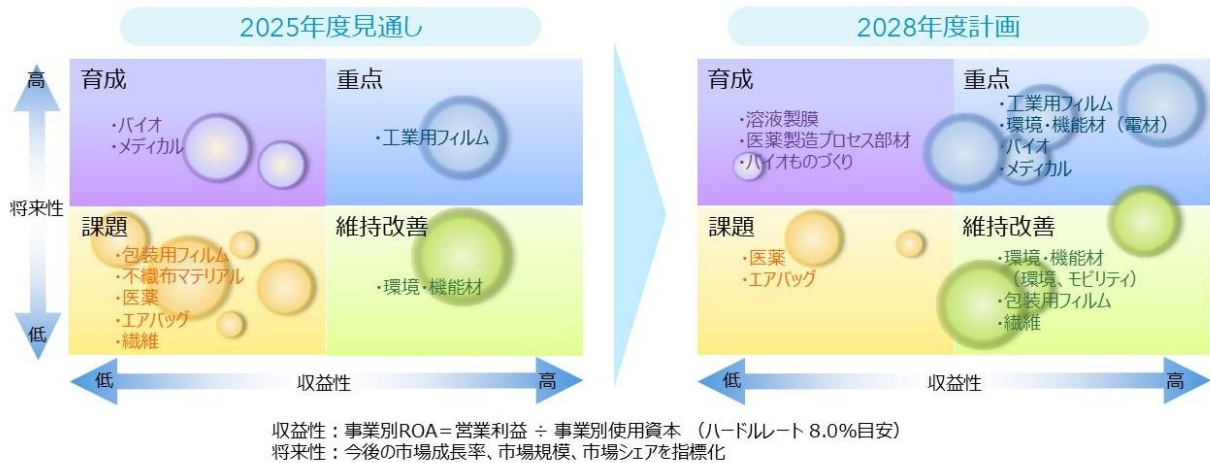
	2025年度 見通し	2028年度 中間目標	2030年度 目標
重大インシデント	ゼロ	ゼロ	
ROE (%) *1	4.3	> 6	> 8
ROIC (%) *2	3.3	> 4.5	> 6
営業利益率 (%)	5.6	> 7	> 8
D/Eレシオ (倍)	1.29	< 1.2	
重点事業比率 (使用資本) (%)	27	> 50	
従業員エンゲージメント指標	52%	≧ 60%	≧ 70%

*1 当期純利益÷期首・期末平均自己資本 *2 NOPAT÷(有利子負債+純資産)

① 施策1：事業ポートフォリオ改革

「収益性と将来性」の2軸、「重点・維持改善・育成・課題」の4象限に各事業を層別し、各々の位置づけに応じた事業運営を行います。2028年度には、「重点」に位置づけられる事業を、工業用フィルムに加えて、バイオ、メディカル、環境・機能材の電子材料とし、「重点」事業の使用資本比率を27%から50%超とする計画です。

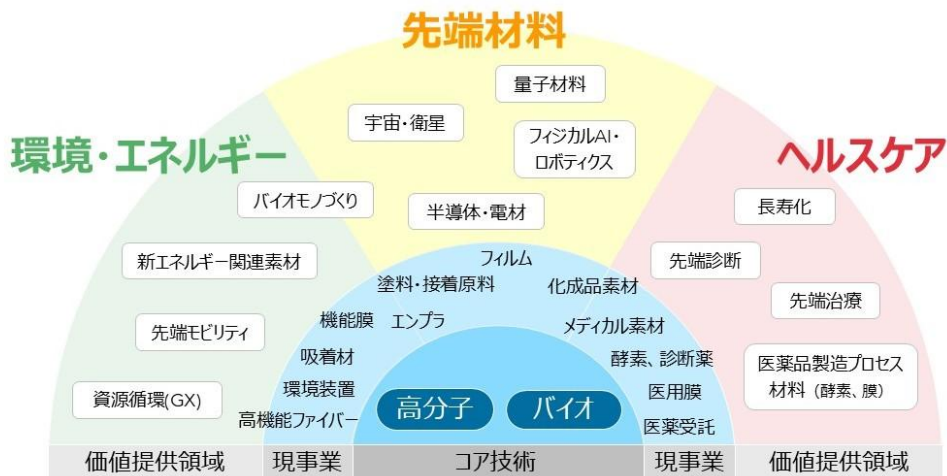
【事業ポートフォリオ改革】



② 施策2：未来への布石

「先端材料」「ヘルスケア」「環境・エネルギー」の価値提供領域の有力テーマに対して資源をシフトしていきます。

【価値提供領域】



【方針】 ● 3つの価値提供領域への資源シフト、事業化加速

● マーケティング機能強化（技術開発と市場・顧客開発の融合）

【資源配置】 新の創出・基盤技術：20%、新製品開発：65%、事業サポート：15%

③ 施策3：基盤づくり・強化

経営戦略と連動した人材戦略、TX (Toyobo-Transformation) の推進、ロードマップに沿った安全・防災、品質の活動推進、リスクマネジメントの強化など、経営基盤の強化を図ります。TXでは、経営チームのリーダーシップのもと、「ヤメル、まとめる、つなぐ」の基本方針を通じて付加価値革命を実践し、サステナブルな企業に変革する諸活動を進めます。

(2) 主な事業の成長戦略

① フィルム事業

- ・投資効果の発現、および工業用フィルム、包装用フィルムの一体運営による持続的成長基盤の構築を図ります
- ・半導体、燃料電池、風力発電、太陽電池、エネルギー・宇宙向けの高機能工業用途におけるカテゴリー・リーダーを目指します
- ・環境対応、高品質製品へのポートフォリオ改革を進めます

② ライフサイエンス事業

- ・QOLの向上に貢献する製品をグローバル展開すると同時に、新規市場（治療領域）への展開を進めます
- ・膜技術の血液浄化、医薬品製造プロセス用途などへの展開を加速します

③ 環境・機能材事業（主に東洋紡エムシー）

- ・電子材料、環境、モビリティの3つの注力領域に経営資源を集中します
- ・海外強化、新規開発、インオーガニック施策の実行と、アライアンスを通じたポートフォリオの改革を加速します

(3) 財務指標

【財務指標】

	2024年度 実績	2025年度 見通し	2028年度 計画 ^{*5}	2030年度 計画 ^{*5}
売上高（億円）	4,220	4,300	4,700	5,000
営業利益（億円）	167	240	350	450
営業利益率（%）	3.9	5.6	7.4	9.0
EBITDA（億円） ^{*1}	394	485	640	762
当期純利益（億円）	20	85	140	190
ROE（%） ^{*2}	1.0	4.3	> 6	> 8
ROIC（%） ^{*3}	2.3	3.3	> 4.5	> 6
D/Eレシオ（倍）	1.37	1.29	< 1.2	
Net Debt / EBITDA倍率 ^{*4}	6.1	4.9	< 4.0	
設備投資（億円）	432	310	350	315
研究開発費（億円）	143	150	売上高比率 3~4%	

^{*1} 営業利益 + 減価償却費（のれんを含む） ^{*2} 当期純利益 ÷ 期首・期末平均自己資本
^{*3} NOPAT ÷ (有利子負債 + 純資産) ^{*4} (有利子負債 - 現預金) < 期末 > / EBITDA

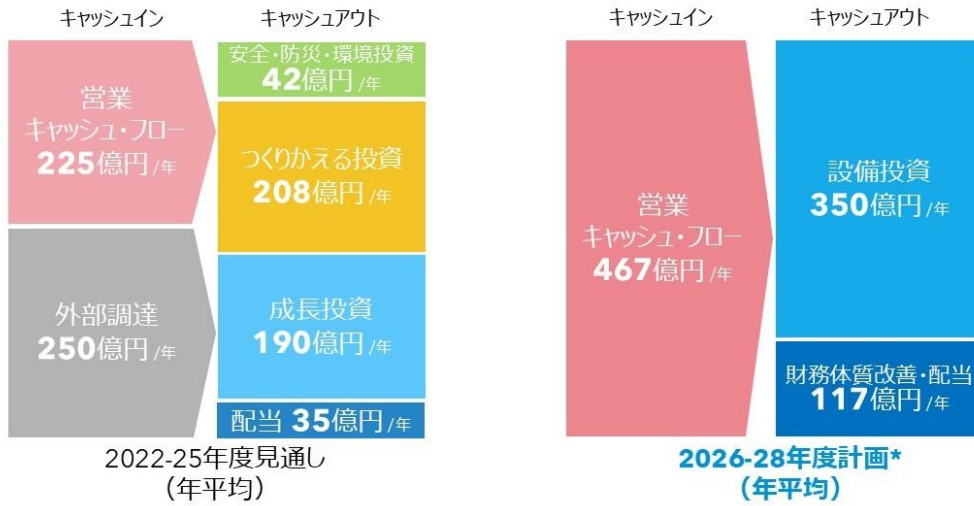
^{*5} インオーガニック施策、カーブアウト含まず

(4) 財務戦略

2025 中期経営計画の営業キャッシュ・フローは年平均 225 億円、それに対し 2026～2028 年度は 467 億円に拡大する計画です。

加えて、設備投資を年平均 440 億円から年平均 350 億円に絞り込むことにより、フリー・キャッシュ・フローを増やし財務体質を改善します。

【キャッシュフロー・アロケーション】



*インオーガニック施策、カーブアウト含まず

【設備投資】



(5)株主還元方針

安定的な配当の継続を基本としつつ、持続性のある利益水準、将来投資のための内部留保、財務体質の改善などを勘案した上で、総還元性向 30%を目安とします。

4. 企業価値向上に向けて

「事業ポートフォリオ改革」「未来への布石」「基盤づくり・強化」の3つの施策を推進し、財務体質の改善と利益成長を両立させ、ROE 8%超およびPBR1.0倍超の実現を目指します。これらの取組みを通じて、「サステナブル・ビジョン 2030」で掲げる「社会価値と企業価値の両立」を確実に進め、持続的成長を実現してまいります。

【企業価値向上に向けて】



以上

(ご参考) 詳細は、当社ウェブサイトに掲載の資料をご参照ください

「2030 中期経営計画 (2026～2030 年度)」

<https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/plan.html>

「サステナブル・ビジョン 2030」

https://www.toyobo.co.jp/sustainability/group_sustainability/vision/